

はてしない物語

受賞 大阪劇フェス2018作品賞及びスタッフ賞(人形美術・舞台美術)
平成30年度 大阪文化祭奨励賞

夢みることをやめし時、ファンタジーエン失われ
ファンタジーエン失せし時、人の世、色あせる
今、君がつくる物語が世界を変えるー

原作/ミヒヤエル・エンデ

訳/上田真而子、佐藤真理子(岩波書店刊)

DIE UNENDLICHE GESCHICHTE by Michael Ende

Puppet stage rights licensed

by AVA International GmbH, München

脚色/宮本敦

演出/東口次登

人形美術/永島梨枝子

舞台美術/西島加寿子

音楽/一ノ瀬季生

照明/永山康英

振付/セレノグラフィカ

ファンタジーから生まれる未来

ドイツ・ファンタジー文学の傑作を人形劇化!

【あらすじ】

ある日、ひとりぼっちの少年バスチアンが古本屋で見つけた「はてしない物語」。そこは不思議な生き物たちがいっぱいファンタジーエンという世界、しかし“虚無”が広がりまもなく滅亡するという。その危機を救うべく緑の肌族の少年アトレュが選ばれ冒険の旅に。幸運の白い竜フツフルに乗り、空を駆け巡り、人間の子どもが救い主だとつきとめる。夢中に本を読み続けるバスチアンは本の中から呼びかけられ、ファンタジーエンを救えるのが自分だと知り、勇気を振り絞って本の世界に飛び込んでいく。ファンタジーエンを救ったバスチアンは幼ごころの君に望みがかなう首飾り“アウリン”を授かり、本の世界の中で望みをかなえていく。しかし同時に現実世界の記憶をだんだん失っていく。さらに魔術師サイーデにそそのかされ、友情で結ばれたアトレュと対決することに・・・



人間は言葉を獲得し、想像することで発達してきた生き物なのに、科学が発展し豊かで便利になった今、何も考えなくてもよい人間を生み出そうとしている。社会はコミュニケーションが大切と訴えるが「仲間や友だちがいなくても大丈夫、ひとりでも遊べるよ」と電子機器が麻薬のように嘔き、仲間や想像の時間が盗まれていく。不毛な未来を予感させる時代に、人を愛する喜び、想像することの喜び、自分と向き合い如何に生きていくべきかを問う物語。想像する力を信じれば自分の未来が見えてくる、ファンタジーエンの世界をお楽しみください。

演出/東口次登

